



渡部正司 議員

新庁舎建設用地を見直す考えは町民のご意見等をお聞きしながら進めます

問 建設・運営等、全般見直しについてどう考えているか。

答 財政上の理由で建設延期をしていますが、財政状況に改善の兆しが見え、再開することが可能と判断したことから、庁舎整備課を新設し、基本構想に着手することとしました。建設予定地内にある取得済み建物を解体し、9月末までに更地にする予定です。令和6年度の着工を目指します。

問 都市計画、防災、広域的判断等々の視点から、4年前の現有地決定を見直し、運営まで見通した新たな方策や、適地を探るべきではないか。

答 建設予定地は、現有地周辺とする議決をいただいております。当該予定地を前提とし進めているところですが、事業を延期してから4年が経過し、町を取り巻く状況も大きく変化しているため、町民の皆様方のご意見等をお聞きし、様々な内容について確認しながら事業を進めてまいります。

問 現有地の利活用として、現商店街のみならず、町全体のため、子供が遊び、人が集う「ばんげセントラルパーク」構想を提案する。

答 現庁舎周辺地域は、商店街の中心であり、イベント等は、今後も同様の場所で開催されていくと思われまますので、周辺地域の整備が必要であると考えています。その際には、イベント等の中心地としての役割とともに、町民の皆さんが気軽に集えるような空間を整備していきたいと考えております。



新設された庁舎整備課



五十嵐一夫議員

町内大通りに広い歩行空間を地権者の理解と協力が必要

問 30〜50年後を見据え、町内大通りに ※壁面線規制を行い、将来広い道路と歩行者空間を確保できるよう、都市計画の取り組みを提案する。

答 道路境界からさらに2〜3mを後退する形での壁面線規制を実現するには沿線の地権者の理解、協力が必要であり、実現するには時間を要するものと考えています。

問 無電柱化の効果として歩行者空間の確保だけでなく景観、防災安全という点で効果も大きい、大通り沿いの無電柱化の実現に向けて県に要望していきます。

答 移住定住政策を進めるなかで、歩行者空間整備を含めた利活用方法をともに考えていきます。



広く快適な歩行空間

※壁面線の制限は一定要件のもと、街区において建物と道路との間に空間を確保し、広く快適な街路を形成し、街並みを整え、賑わいを創出し景観などの向上も目的としています。

問 坂下町の最高地点はどこでしよう。最高地点を認識するために小中学校で教えているでしょうか。

答 坂下町の最高地点は馬立山の東が最高地点

問 柳津町と若宮地区の町境付近の馬立山の東側です。授業では教えていません。

問 町最高地点への登山道整備・地区活性に寄与するような取り組みをしていきませんか。勝方地区・若宮地区の地域活性のための一つにはしらないか。

答 東松峠ウォーキングは地域係団体と協力し、登山道整備を行っています。今後地域活性化に向けて取り組みを行っていきます。

問 これも質問 安心安全の横断歩道対策、車いす・シニアカーの安心安全通行対策を。



横山智代 議員

「ゴミ袋の価格は下げられないのか」
現時点での値下げは考えていません。

問 ゴミ袋の価格の引き下げはできないのか。ゴミ袋の収益その他の報告がないのはなぜか。

答 現在使用量の一番多い可燃ゴミ袋40ℓ、10枚、1ロール525円で販売しています。この価格には、原価の他に町の手数料が含まれているので、市販のゴミ袋と比較すると高い金額になっています。手数料は環境センター負担金、各種団体の資源回収報償金やコンポスト等購入補助金に充当し、ごみ減量化推進とともに負担の公平性を目的としている為、現時点での値下げは考えておりません。ゴミ袋の収益、積立額等についての報告は町民の方々にお示ししておりませんが、広報誌において、排出実績等とあわせて今後報告していきたいと考えております。



現在使用している
ゴミ袋

「学校給食の無償化・補助の考えはないのか」
無償化・補助の考えはございません

問 高齢化社会を支える子育て世代への支援として学校給食費の補助はできないのか。

答 施設・設備の経費、運営に要する経費は町、食材費は給食を受ける児童生徒の保護者に負担いただいております。現時点では、全世代に対する無償化・一部補助の考えはございません。

これも質問
プラスチック資源循環法による影響と取組について。

問 ゴミ分別アプリの導入について



蓮沼文明 議員

中学校運動部活動の『地域移行』により坂下中学校はどのように変わるのか
新たな地域スポーツ環境が整備される効果が期待できる

問 中学校運動部活動で、外部指導者や団体に委ねる「地域移行」によって、新たな地域スポーツ環境の構築も期待できると考える。今後、坂下中学校はどのように変わっていくのかを問う。

答 「地域移行」により、活動の選択肢が増えることは地域スポーツ活動にも多様性を生むため、生徒以外にも様々な世代が気軽にスポーツに参加できる環境が整備される効果も期待できると考えます。加えて、生徒が中学校を卒業した後であっても、その生徒が引き続き地域でスポーツを楽しむことができる機会が創出、また新たに指導者として競技に携っていただくための素地にもなることから、中学校を軸として地域のスポーツ環境にとつても良い効果を生み出すものと考えます。



「地域移行」によって
変化する中学校部活動

問 ばんげひがし公園は、安全・安心・楽しいを公園管理運営の基本方針として、今後老朽化した遊具については、より安全性の高いユニバーサルデザイン遊具に更新しながら、会津管内において先進的な「インクルーシブ公園」を目ざして整備の促進を図っていくべきと考えるが、町の見解を問う。

答 ばんげひがし公園に設置されている遊具は、時代的にもユニバーサルデザインを取り入れた遊具ではなく、老朽化も著しい現状にあります。定期的な点検並びに修繕を実施しているとはいえ、老朽化への対応には限界があり、利用者の安全を担保する意味でも遊具の更新は必要であると考えています。現在、公園遊具の更新等に向けた利用者アンケートの準備を進めており、インクルーシブ化も含めて利用者の意見を集約し、整備に向けて取り組んでいきます。

※障がいのある子どもとない子どもとが一緒に楽しく遊ぶことのできる公園のこと



青木美貴子議員

町の福祉事業と社会福祉協議会の事業の実態について伺います
相互に連携し、補強し合いながら地域福祉の推進をしております

問 お互いに意見交換をし合いながら共に進められる事業はあるのではないかと。寄付の内容とその事業について充当先を町として把握しているのか。

答

町からの委託事業・介護保険事業・社会福祉協議会独自の事業を行うことで、本町で生活している皆さんが安心して地域で生活していく為の地域環境の整備を共助により進めております。寄付の用途については、各種講座や教室の開催や、社会福祉協議会の独自事業である除雪機の助成、弁護士相談会の開催などの財源に活用しております。また実績については、事業年度終了後、町で報告を受けております。



中心部の目抜き通り

会津西部の中心としての役割をどう受け止めているのか。
会津西部の中核の町であると認識しております。

問

人口減少が避けられない現状の中、坂下町は西部の中心を担うと考えるが、広域連携を踏まえて町として考えている事業はあるのか。

答

会津盆地西部に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきており、地域住民の生活に欠かすことが出来ない、交通・医療・経済面の機能を持った、会津西部の中核の町であると認識をしております。町単独では対応が困難な課題や、連携により効果が高まると思われる事業については、近隣市町村と広域的に連携して取り組むことが必要であります。今後も課題を共有しながら解決策を協議し広域的に連携した取り組みを進めて参ります。



赤城大地 議員

「子育て支援」とは何か
子育てを意識した、町の施策すべてが「子育て支援」です

問 町の子育て施策は本当に「子育て」への支援であったのか。子育て支援とは何か。

答

第六次振興計画では、子どもの成長に合わせた支援の体制づくりと保護者の育児力を高める環境づくりを目指す方向として策定しました。「子育て支援」は、親への支援を通して子どもの成長へつなげることが大切であり、町の施策を実施する際、子育てを意識することも子育て支援であると認識しております。

県の補助金も活用し集落の課題解決に取り組むべきでは
有効に活用しながら地域づくりを推進します

問

県は新たに集落の課題解決に向けた取り組みを支援する補助制度を設けた。これらを活用し、本町においても集落や地区の課題解決にむけ早期に取り組みべきと考えるが見解を伺う。

答

現在、町では課題解決型の地域づくりを推進しております。今後も各地区コミセンや行政区と連携し、県の補助金も有効活用しながらさらに深化した地域づくりを推進いたします。



すべての施策が子育て支援につながる



佐藤宗太 議員

スポーツ庁が示している「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の考え方は県から示された「教職員多忙化解消アクションプラン」や「部活動の在り方に関する方針」に沿って改革を進めてまいります。

問 スポーツ環境整備のため、旧坂下高校体育館など利活用に向け県に働きかけをすべきと思いが、当町の考えは。

答 体育館やグラウンドなどの運動施設については、街なかになくアクセスが容易であり、ニーズは高いと思われまます。今後は、福島県に無償で使用できるよう働きかけをしていきます。

問 令和5年度以降に段階的に実施している休日の部活動の段階的な地域移行に向けた取り組みの現状は。

答 この方針に沿って既存の各種スポーツ団体関係団体、学校関係者等で組織する協議会を設け、スケジュールや課題等を整理し、令和5年度から令和7年度の3年間を目的に、休日の部活動の地域移行に向けた体制作りを図ってまいります。

これも質問

問 当町のヤングケアラーの現状は



変わる部活動



小畑博司 議員

持続可能な農業とするためにどのような施策を展開するか
10年後の目標に向け総合的な施策を展開中です。

問 ロシアのウクライナ侵攻によって、あらためて我が国の食料自給率の低さや、生産資材の海外依存度が高く、将来の危うさが明らかとなりました。今こそ現実を直視し、持続可能な農業を確立する絶好の機会ではないか。農業従事者の現状をどのようにとらえているか。

答 高齢化と後継者不足にあり、農業従事者は1103人で、5年間で2割減り、当町農地面積の4割を65才以上の方が耕作しております。今後もこの傾向はつづくものと考えております。

問 持続可能な農業とするためどのような施策を展開するのか。

答 安定的な農業経営の指標に關し、概ね10年後の目標を明らかにし、総合的な施策を展開中です。

問 新規就農者の確保・育成策として、農業塾の開設、農業サポーターの募集や、食育・食農活動の拡大は考えられないか。

答 現在、新規就農者の研修受入れ先の確保や、就農後の栽培技術の支援、経営面に対する支援を行っております。また、施設建設や、収穫作業等において若手農業者同士の協力体制が構築されつつあり、こうした取り組みを拡大し、課題解決の糸口にしていきたいと考えております。



田植えを待つ田んぼ



みんなのひろば



りきたけあやか
力武彩花さん

4月より町の地域おこし協力隊として活躍されています
お二人を紹介します。



ゆさかずき
遊佐一希さん

はじめまして、力武彩花です。
出身は北海道苫小牧市で、宮崎県で3年間化学メーカーに勤務していました。趣味は料理、裁縫、サイクリングです。会津坂下町の町中どこからでも綺麗な田園風景や山々が見られること、美味しい農作物がたくさんあるところに魅力を感じます。
古民家改修、カフェ開業に向けた活動を通じて、会津坂下町をさらに盛り上げられるよう精進してまいります。宜しく願いいたします。

福島市出身の遊佐一希です。
会津坂下町の景色や食べ物、人の温かさや地域に根付いた暮らしに魅了され、ぜひ皆さんと自分らしい暮らしを送りながら地域を活性化したいと思い、栃木県より移住してきました。
趣味はローフードやピラティスをはじめ、地球と一体となり自身や社会のより健康的で持続可能な姿を追求することです。会津坂下町にある人と人との楽しい繋がり、紡がれてきた歴史を大切に、地域を盛り上げていきたいと思っています。

次回定例会ご案内

令和4年第3回定例会は、9月1日（木）から9月14日（水）までの予定です。
一般質問は9月5日（月）、6日（火）午前10時からです。
傍聴にぜひお越しください。
※傍聴の際はマスクの着用をお願いいたします。

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 小畑 博司 |
| 副委員長 | 横山 智代 |
| 委員 | 目黒 克博 |
| 委員 | 蓮沼 文明 |
| 委員 | 物江 政博 |
- 広報広聴特別委員会

編集後記
広報広聴特別委員会のメンバーが変わりました。議会と町民の皆様をつなぐ「議会だより」をより充実させ、親しんでいただく紙面にしていきます。
これからも皆様のご貴重なご意見をお寄せください。
(小畑博司)